

通信制高 多様な学び方魅力

オープンキャンパス後に反復会を開く第一学院札幌キャンパスの生徒たち



「中学で全く行けない、遅れもあつたが、いつまでも良い状況に環境が変わって迎へ今は週5日通っている」。8月上旬、通信制高校の第一学院高校札幌キャンパス（札幌）の中学生とその保護者を対象としたオープンキャンパスで、現役生徒が同校の魅力をつつた。通信制高校は、卒業要件を満たせば全日制と同等の特権。卒業には①36

高い自由度 興味あるコース選択

通信制高校で学ぶ生徒が全国、北海道内で増えている。中学時代に不登校になった生徒が進学しているほか、全日制高校に比べて自由度が高いことから、自分の興味に合ったコースを選べるという利点が受け入れられており、道内でも多様な学び方が広がっている。

高校生の10人に1人 大学進学や学び直しも視野

力月以上の在籍期間②30単位時間以上の特別活動③必修科目を含めた74単位以上の単位修得―を満たせばよい。

単位は課題を提出するリポート、テストのほか、面接指導「スクーリング」を受けることで認定される。スクーリングは数日間だけ茨城県にある本校に集まり、授業のほか生け花や習字など体験学習を行う。

3年の小野尊吾さんは中学2年のクラス替えを機に不登校気味となり、通信制高校を選んだ。スクーリングが印象に残っているという「知らない土地で過ごすのが怖かったが生徒同士の交流が楽しかった」と振り返る。第一学院高の菅野将史

札幌キャンパス長（47）は「不登校だけでなく、生徒は（自律神経の機能不全で不調が起きる）起立性調節障害や発達障害など自身自身の特性をコントロールできず生きづらさを感じており、一人一人と向き合う教育のニーズが高まっている」と語る。

大学進学といった個別の目標や外国人講師とのオンライン英会話などを専攻できる「プレミアムコース」もある。3年の舟山諒介さんは同コースで道外の国立大学を志望し、受験勉強に励む。「自分で必要な授業を選んで受けられるので良い環境。自由な反面、責任もあり、自己管理ができるようになった」と話す。

文部科学省の調査を基にリクルート進学総研（東京）がまとめたリポートによると、高校生全体の人口が10年間で12・3％減少する中、通信制課程に通う高校生は60・8％増加。2024年度は29万人を超え、高校生の10人に1人が通信制課程の生徒になる計算だ。

本年度の文科省の学校基本調査（速報値）によると、道内に本校がある通信制高校は10校あり、生徒数は2万8235人。通信制高校が集中している首都圏などと比べると伸び率は小さいが、15年度比で学校は2校、生徒は27％増えた。

このうち、私立の北海道大谷室蘭高は今年4月、通信制課程を新設した。現在6人が通い、全日制から転入した生徒も。登校は週2日とし、社会人の学び直しも受け入れる。通信制の南條式史教頭（65）は「まだ手探りの状況だが、生徒一人一人をサポートしていきたい」と話す。

（竹田菜七）